

名 称		平成 27 年度 第 2 回 ほどがや市民活動センター評議会 議事録	
日 時		平成 28 年 3 月 7 日(月)10:00～12:00	
場 所		ほどがや市民活動センター (アワーズ) ミーティングスペース	
出席者	評議会委員	浅井 経子 委員 (八洲学園大学 生涯学習学部 生涯学習学科 教授) 小倉 敬子 委員 (公財)かわさき市民活動センター 理事長) 有元 典文 委員 (国立大学法人横浜国立大学) 山崎 滋 委員 (保土ヶ谷区連合町内会長連絡会) 竹迫 和代 委員 (参画はぐくみ工房 代表 兼ファンリレーター)	
	保土ヶ谷区役所	地域振興課 生涯学習支援課長 名木 斉 同 生涯学習支援係長 大屋 将佐 同 生涯学習支援係 西村佳那子 同 生涯学習支援係 川満 由佳 同 生涯学習支援係 平山 啓子	
	協働運営会議	代表 小林 由美子	
	管理運営業務 受託者 アクティオ(株)	アクティオ株式会社 取締役 佐熊 邦弘 アクティオ株式会社 開発営業部 藤原 さなえ ほどがや市民活動センタースタッフ 望月 智子 同 スタッフ 中村 美奈 同 スタッフ 正法 みどり	

議 題	(1)平成 28 年度ほどがや市民活動センターの運営及び業務 (2)ほどがや市民活動センター協働運営会議から (3)評価シート記入 (4)その他 意見交換
資 料	1.平成 27 年度 ほどがや市民活動センター 評議会委員・名簿 2.平成 27 年度下期 ほどがや市民活動センター 事業報告書一覧 3.平成 27 年度下期 施設利用状況 4.平成 27 年度下期 事業報告書 5.平成 27 年度下期 街の学習応援隊 登録状況・活動状況 6.ほどがや市民活動センター 協働運営会議 資料 7.平成 27 年度下期 ほどがや市民活動センター 活動報告 評価シート 8. ほどがや市民活動センター評議会会則

*会議成立 委員 5 名中、5 名が出席。

ほどがや市民活動センター評議会会則第 8 条第 2 項に基づき、定数の過半数を充たし、本会議は成立した。

あわせて、H27 年度第 2 回評議会において、議長は小倉委員、副議長は浅井委員が選出されていることを確認した。

議題(1)平成 27 年度 ほどがや市民活動センターの運営及び業務

(1)-1

「平成 27 年度下期 ほどがや市民活動センター事業報告書一覧」に基づき、「場の提供」、「情報の提供」、「相談・コーディネート」について報告

- * 場の提供⇒稼働率は昨年と比べて全体的に 5%上がっている。特に研修室においては、午前 81%、午後 88%と約 9 割の稼働率がある。夜間は 41%なので平均すると 70%の稼働率となる。和室においては、午前 53%、午後 65%と、約半分以上の稼働率となっている。夜が 27%で平均稼働率は 46%。固定の団体が増えたことと、はぐくみ塾の若いお母さんの利用が増えているという実感がある。また、研修室を希望する団体が多い為、研修室が取れなかった団体が和室を利用することも増え、全体的な稼働率の上昇に繋がっている。H28 年 1 月末までで、利用者数 19,595 名。同じく稼働率は 1 月末で 58.3%。上向きに推移している。
- * 相談・コーディネート⇒H27 年 4 月～H28 年 1 月、相談件数 511 件/昨年同期 452 件。内訳としては、生涯学習の問合せが 50%、応援隊の問合せが 20%。約 7 割が生涯学習関連の相談に占められている。
- * 情報の提供⇒アワーズの広報媒体(メルマガ、ホームページ、情報紙、フェイスブック)を提供することにより、より広く利用者の拡大に結びついている。情報紙に関しては、発行部数の変更は特に無い。3 月発行の情報紙で、昨年 1 年間続けてきた街のリポーターの活動が一区切りとなった。情報紙の表紙にアワーズのイベント・講座情報を掲載しているが、アンケート項目にもあるように、アワーズのイベントを情報紙で知ったという人が 3 割で、情報紙を見て講座を申し込む人が増えてきている。メールマガジンは微量に増えているが、アワーズの新規の団体や応援隊に登録した方々に、メルマガに登録して頂いているのが現状。ホームページのアクセス件数は、1 月末までで 7,475 件、フェイスブックに関しては、1 月末のページのいいね！が 42、リーチが 4,942 と、少しずつ増えてきている。10 月 11 月と、イベントが続いた際にフェイスブックにその都度情報を配信していた結果、フェイスブックのアクセス数に伴い、HP 検索数も上昇した。SNS との連動で、HP のアクセスも増えるといったよく分かる事例となったと考えられる。

【委員からの質問とアワーズからの回答】

(質問)フリースペースは予約がいらぬのか？

(回答)予約は 4 テーブルまでで、それ以外の 5 テーブルは当日来て自由に利用できる。

(質問)それは市民がご存じなのか？そういった場所が少ないのだが。

(回答)分かっただけのご利用いただくのは決まった団体や個人が多いが、ロコミなどで利用は増えている。但しあくまでここは市民活動や生涯学習としてご利用していただく施設であり、個人的な利用はお断りしている。

(質問)フリースペースの稼働率はどのくらいあるのか。

(回答)フリースペースの稼働率(統計)はとっていない(件数が把握できない)が、金曜日の利用が大きい。土日は貸切りでの利用も多い。

(質問)自ら団体を立ち上げたいという件数が少なすぎる。自ら参画して立ち上げていきたいという相談が減っているのか、既存にある団体に入りたいという人が増えているのか希望者の傾向は？

(回答)ゼロから立ち上げたいという人は少ない。外で同じようなグループに参加していて、ここでも立ち上げたいという人はいても、ゼロから立ち上げたいという相談はほぼない。自分のやりたいことが決まっているか、趣味を広げたいという方が多い。本来はその中から「自分達のグループを」という方への支援が私たちの仕事のひとつだが、残念ながらそれほど無いのが現状。1 件だけ 1 人でグループを立ち上げたいという相談があった、その方は他のカウンセリンググループに参加されていたが、自らもカウンセリングのグループを立ち上げたいとの相談を受けた。ただ実際は、ご自身で一人でも二人でも仲間を作ってくださいとしかなく、賛同者を集めなければ入口がスタートできないというのがあった。ひとりの段階から支援していくのはなかなか難しい。今はその方は実際に仲間を集めてグループで積極的に交流会にも参加して活動をされている。

(1)-2 「平成 27 年度下期 ほどがや市民活動センター事業報告書一覧」に基づき、「新たな担い手の視野を広げる」「サークル・団体の活動・事業・運営を支援する」を報告

* ボランティア入門講座⇒子育て支援拠点「こっころ」、社協、アワーズの共済事業として、発達障害のあるお子さんをサポートするボランティア入門講座。今年度は昨年度の反省を活かし、開催時期を変えたり、新たな開催先の拡大を図ったり、1回完結にしてスポット参戦できる内容にした結果、述べ46名の参加があった。

発達に遅れのあるお子さんに関しては、民間でも放課後デイサービスという形で取り組みも広がっている。このボランティア入門講座も4年目に入る、発達に遅れがあるお子さんへのボランティアの先駆けとしてこれからも注力していけたらいいのではないかと考える。

* シニアライフ講座⇒3月(全3回)開催予定。

* IT相談会⇒パソコンよこはま宿(旧名称:パソコンほどがや宿)との共催事業。IT相談会の参加者は減少傾向にある。パソコンよこはま宿にヒヤリングしたところ、タブレットの普及に伴い、依然のようにしっかりとexcelやwordを習いたいという人が減って、代わりにタブレットやスマホの相談が増えてきているとのこと。相談者自体は減ってきているが、その分中身も変わってきているというのが現状。

* 団体カススキルアップ講座⇒2月・3月開催予定。

協働運営会議との共催事業。登録団体、個人、応援隊のスキルアップを図ろうということで、毎年テーマを決めて、テーマに沿ったプロの講師を招き講座を開催している。今年度は防災がテーマで、2月27日「しゃべろう会」にて、避難所運営ゲームというHAGを体験した。3月12日は、救急のガイドラインが変更になったことを踏まえて、最新の救命救急を学ぶことを計画をしている。

【委員からの質問とアワーズからの回答】

(質問)ボランティア入門講座だが、3回受けて「障害児の実態を知った」で終わってしまったのでは目的の達成とは言えないのではないか。

(回答)NPO法人“きてん”が運営している「希望の家」という障がい児施設に体験学習に行き、昨年度2名繋がっている。ただ、障がい児のお子さんの申込みの数が減少傾向にあり、この先ボランティアを募集できるのかが、問題となってきている。その他は、ボランティアセンターにお願いして、体験をやらせて頂き、繋がっているという事例がある。

(質問)社会福祉協議会と同じようなことはやっていないのか？

(回答)“はじめの一步”というカードゲームを行ってボランティアを知るという、1回だけの講座があります。その後ボランティア入門講座を受けて頂くという流れとなっています。

(質問)ボランティア活動保険には入っているのか。

(回答)はい。

(質問)通学のつきそいサポートはどのくらいニーズがあるのか。

(回答)3名の応募があった、実際にボランティアさんの後ろをついていく形でのサポート。

【委員からの意見】

・このような特殊なボランティアは、社会福祉協議会が中心となってやって、継続的なフォローアップができないと個がやるには非常に重い。いろんなボランティアをやってみようとの動きはいいが、そこからボランティアに繋げるのは難しい。

・ボランティア入門講座の新たな担い手を広げるこの事業は重要なポイントだと思うので、もっと違う軸でこの市民活動センターならではの講座の内容を考えるべき。

・特殊な分野では、ノウハウが無いのでフォローアップできない。誰でもできる一般のボランティアで何かできないか、今後検討したほうがいい。

・例えば、(川崎では)子育てボランティア養成講座を始めるときには、最終的にグループを立ち上げることを見据えた講座にしている。グループの数は多いが、まだまだ需要も多いので、最初から新しいグループを作るための講座であると、最初から打ち出してやる。そうすることで皆その気で講座を受講し、グループで何をしていくかを植え付けていながら1年くらいフォローしていかないと、立ち上げは難しい。こんなボランティアがありますよ、というのは簡単だが、フォローしていくことが大変。今後アワーズは考えていかなければならないと思う。

(1)-3

「平成 27 年度下期ほどがや市民活動センター事業報告書一覧」に基づき、「交流の機会を創出する」「街の学習応援隊」事業を報告

*利用者交流会⇒利用者交流会 第 2 弾では、10 月 30 日に「横浜はじめて物語」というイベントを開催、応援隊の登録団体である“ほどがやガイドボランティア”の案内で関内・馬車道を中心に廻り、最終的に開港記念会館で交流会を開き、昨年に続き大変好評だった。

第13回しゃべろうかいのテーマは防災、区役所に来ていただき、主に風水害に関してのお話を聞いた。今回は誰しも関心の高いテーマ故か、新しい登録団体が多く参加した。全体的に参加者も多く、良い内容となった。

*協働運営会議の事務補助⇒今年度はリーフレットを作成した。協働運営会議とはどういった活動をしているのか、説明ツールとして作成し、既存の団体に送った。

*生涯学習フォーラムへの参画⇒フォーラムや実行委員会、役員会を実施。

生涯学習フォーラム「まなぶん祭り」11 月 28 日・29 日開催、延べ 1,180 名参加、まなぶん祭りは今年で 15 周年、アワーズは 10 周年ということで、オープニングには神奈川県警音楽隊に演奏を依頼し、2 日目は、白バイ展示も依頼。演奏も展示も大変好評だった。また、応援隊のバルーンアートさんに依頼し、大きなバルーンアーチを作成していただき、入口に配置。遠くから目立つアーチを見て来館された方々も多く、より集客へとつなげることができた。

*街の学習応援隊⇒昨年同期を超える勢いで増えてきているが、依頼は横ばいよりやや減ってきている。全体で依頼されるジャンルは、趣味・実用、いわゆるパフォーマンス・大道芸が 48%と、約 50%で、次いで音楽が 25%、合せて 73%。一方で、保健福祉系などの依頼は少ない。また、旭区、瀬谷区など近隣の区からの応援隊の依頼が増えてきている。アンケートを見て頂くとわかるが、旭区・瀬谷区・西区からの依頼が増えている。年に1回の沿線6区会議を行っているので、近隣の区同志、横の繋がりを持ち、自分のところで紹介できないものでも、近隣の区で紹介し合い、繋げていこうとの話をしているのでその結果だと考えられる。

【委員からの質問とアワーズからの回答】

(質問)文化協会は無いのか。

(回答)イベント的に年に1度の区民文化祭などはあるが、協会は無い。

(質問)応援隊は個人では依頼できないのか、相談できる人、日常生活で困っている人が多い。

(回答)個人での依頼には対応していない。社協に日常生活の「お助けグループ」はある。

(質問)協働運営会議のリーフレットを作った意味は？協働運営委員会の募集のためなのか、アワーズのPRのためなのか？

(回答)協働運営委員会とはどんなことをしているのか、団体登録の際などの説明ツールとして作成。2年に一

度、新規で運営委員を募集している。アワーズのPRも含み、協働運営会議について、知らしめる為に作成した。

【委員からのご意見】

- ・川崎では教育委員会で、街の先生を招いて授業をやっている。どこの学校でもやっているので、横浜の教育委員会でもシステムとしてあるかどうかを、アワーズとして(区として)問合せ調べておいてもよい。
- ・ニーズはあると思うので、年度初めに応援隊情報の材料を持って小中学校の校長会に行き、活用してほしいと周知したほうがいい。
- ・横浜市は素晴らしい学校コーディネーターがいるので、そこから繋がるといいと思う。
- ・応援隊の研修だが、単発(1日限り)の研修で、研修と言っていいのかと残念。ただ楽しい場で終わっている気がする。応援隊のスキルをどうあげていくのか見通しをもうひとひねりした方がよい。
- ・応援隊は受け・待ちの状態はダメ、研究して積極的に動き、切磋琢磨の気迫が必要。(応援隊で)依頼が多い人は、上手下手だけでなく、なんらかのスキルがある。その人に講師となってもらい、自身の活動のポイントの工夫を共有していくことが大切。

(1)-4

「平成 27 年度下期ほどがや市民活動センター事業報告書一覧」に基づき、「区民利用施設との連携」、「広報・周知」、「評価・検証」、「研修」を報告。

*各施設との連携事業⇒「ボランティア入門講座」は区社協、子育て応援拠点こっころ、アワーズ 3 者の共催事業を実施。

「子育て支援連絡会議」への参加。星川地域ケアプラザ主催「ほっしーのわいわいフェスティバル」への参加。「読書推進委員会」への参加。…11月21日講演会の「よみしばい」をアワーズで開催。

12月19日公会堂にて開催の「白石次郎後援会」に協力。今年度は図書館との連携も多く、各施設との連携が多かった年と言えると思う。

*研修⇒2月25日開催した、はぐくみプロジェクトの取り組みの一環として、施設職員と行政職員向けの研修会として区と連携して開催した。今年度は現場対応力アップ講座として“苦情対応を考えよう”というような内容で実施した。

*広報・周知⇒情報紙・メルマガ・フェースブック等に関しては、先程説明の為簡略。

【委員からの質問とアワーズからの回答】

(質問)沿線 6 区会議に参加し、他区のセンターと比べてアワーズの特色はあるのか。

(回答)今回のテーマは「人材ボランティア」。各区によって全く色が違うし、悩んでいるポイントも違うという実感があつた。アワーズの特徴としては、“とても柔軟である”ということだと思う。区役所に設置しているセンターでは、経験が無いと人材ボランティアに登録できないなど、内規を決めなければ運営できない区もある中で、アワーズは「やりたい」との気持ちがあれば、どんな方でも登録できる。その代り、どんなパフォーマンスをするのか、どのような教え方をするのかを、一度見せて頂くようにしている。

職員全員で(パフォーマンス等)体験し、情報を共有することで、私たちの中でのお墨付きをつけたうえで、ご紹介するといった流れがある。

議題(2)ほどがや市民活動センター 協働運営会議から

ほどがや市民活動センター協働運営会議 平成 27 年度下期 活動報告」に基づき、協働運営会議代表より報告

- ・拡大ミーティング:(役員会、しゃべろう会、交流会、プロジェクトメンバー)
- ① 10月20日 ②11月17日 ③12月15日 ④1月25日 計4回開催
- ・まなぶん祭りに参加 2日目の締めには協働運営会議の活動の発表を行い、その後音楽を合わせてのPRを実施。
- ・利用者交流会:平成27年度第2弾「横浜はじめて物語」を10月30日に実施。
- ・第13回のしゃべろう会は、「備えよう！自然災害！保土ヶ谷の身近な防災」を1月23日に実施。
- ・下期全体会:3月17日(木)開催予定。
- ・団体カススキルアップ講座:第1回「ゲームで体験避難所運営～HUGってな～に？」を2月27日に開催予定。第2回「実践！最新の救急救命法～BLSを知ろう！」を3月12日に開催予定。

【委員からの意見】

- ・連合町内会にアワーズの情報を提供し、地域で繋げていき、協力したい。
- ・どれくらいの人が自ら団体を立ち上げていくのか、既存のところに乗っかり乗っかりで展開していくという地域は先細りも見えている実感がある。アワーズは人材を発掘して育てていく機能が必要。ボランティア入門講座、養成講座、団体カススキルアップ講座など見通しが無く、人材が育たないだろうという残念な印象。そういう意味では、はぐくみ塾の若いお母さんたちが頑張っている。保土ヶ谷区はそういう力を持った区民がいるのだから、アワーズ独自のはぐくみ塾をつくるなど人材育成に尽力を注ぐよう期待している。
- ・市民活動とは、人と人とのやりとり、人間同士の交流なので、人間関係を上手に円滑に回していける講座が、基本的な機能としてあったらいい。そういった対策をしておくのもいい。
- ・10年の蓄積は大きい。一方で、時代は変わってきている。登録している個人・団体だけを対象とするだけでいいのかと危惧している。長寿社会、高齢化社会になると、収入も無く、行き場のない人が増えている。市民活動の範疇を超えているのかもしれないが、この方々がどうやって食べていくのか、ということを考えて、それを支援していただくような機関が必要になっていくのではないかと、そうなるボランティアの範疇を超える可能性があるのでは、新しい時代の有り方として区全体として考えていただけたらと思う。
- ・10年間お疲れ様でした。最初はアクティオがどこまでできるかなと思っていましたが、一生懸命やって下さっていたのは事実。ただ、課題はまだたくさんある。会議での意見が十分反映されていなかった点もいくつかあった。次に受ける方々はちゃんとクリアして頂けるように区が繋げてくれればいいのかと思う。市民活動・生涯学習の両方でやっていかねばならない点が大変だが、それと(応援隊の)お金の件なども、交通費や、経費は必要。特にNPO団体などは、運営していくには経費が必要なので、ちゃんと対価を頂かねば運営できない。市民活動とは、慈善事業で行っているわけではないということをきちんと知っていただくこと。時代は変わってきているので、その辺のところを我々もよく考えないといけないと思っている。次年度から、(アワーズが)どう変わるか分からないが、これまでの蓄積をベースにしたよりよいものにしていけばよいのではないかとと思う。

課題(3) 評価シート記入

議題(4) その他 意見交換(全般的な質問、意見交換は各事業の説明の中で行った)

以上